

# ミカン生育情報

千葉県  
平成 28 年 11 月号

## 平成 28 年 10 月の気象

平成 28 年 10 月の半旬別の気象を表 1 に記した。平均気温は、第 3 半旬を除く 5 半旬で平年より高かった。月平均気温は 18.9℃で、平年より 0.9℃、前年より 1.0℃高かった。

降水量は、第 6 半旬を除く 5 半旬で平年を下回った。月合計は 86mm で、平年の 33%、前年の 92%であった。

日照時間は、第 3 及び第 4 半旬を除く 4 半旬で平年を下回った。月合計は 118 時間で平年の 86%、前年の 64%であった。

表 1 平成 28 年 10 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	22.2	20.5	20.4	22	44	17	7	20	26
2	22.0	19.0	17.3	4	71	5	15	20	40
3	16.2	18.7	18.5	1	32	15	23	22	32
4	20.1	17.7	17.4	12	41	42	28	23	25
5	16.7	16.6	17.0	4	31	0	17	23	30
6	16.7	16.0	16.8	45	40	14	28	29	33
平均/計	18.9	18.0	17.9	86	258	93	118	137	185

## 早生温州の果実品質

着色については、三芳地区は平年並み、千倉地区と暖地園研は平年より遅れ気味であった(表 2)。糖度は、全ての調査地で平年を下回った。酸度は、千倉地区と暖地園研では平年を下回った。酸度の平均は 0.94%で、平年より 0.15%低かった。甘味比は三芳地区と千倉地区で平年を下回った。果肉歩合は平年に比べて暖地園研で低く、三芳地区と千倉地区で高かった。なお、いずれの園地でも軽度な浮皮の発生が見られた。

なお、前年よりも、着色は遅れ気味で、糖度は低く、酸度は高い傾向がある(暖地園研除く)。

表 2 早生温州の果実品質<sup>注1</sup> (平成 28 年 10 月 31 日)

調査地	着色程度		糖 度%		酸 度%		甘味比 <sup>注2</sup>		果肉歩合%	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
三芳地区	7.1	7.0	9.4	9.5	1.04	1.02	9.0	9.8	86.4	80.4
千倉地区	5.8	7.7	8.1	9.8	1.04	1.18	7.7	8.4	82.7	81.6
暖地園研	6.8	7.2	8.3	9.0	0.73	1.06	11.3	8.9	80.9	82.1
平均	6.6	7.3	8.6	9.4	0.94	1.09	9.3	9.0	83.3	81.4

注 1) 平年値は平成 8～27 年の平均値

注 2) 甘味比=糖度/酸度

## 果実の生育

10 月末の果実の生育を 3 調査地の平均値で見ると（表 3）、横径、縦径の平年比は早生温州ではそれぞれ 99%、98%といずれも平年並み、普通温州ではそれぞれ 96%、95%と平年をやや下回った。川野夏橙ではそれぞれ 102%、101%であり、平年並みである。

前回調査から今回調査までの肥大量は平年を下回っている調査地・品種が多かった。

表 3 果実の生育\*<sup>1</sup>（平成 28 年 10 月 31 日）

No.		調査地	横径 (cm)	縦径 (cm)
1	興津早生	三芳地区	7.0 (107)	5.4 (106)
2		千倉地区	5.9 (93)	4.6 (94)
3		暖地園研	6.5 (97)	4.9 (95)
4	大津 4 号	三芳地区	6.7 (95)	4.8 (96)
5		千倉地区	7.0 (96)	4.8 (97)
6		暖地園研	6.9 (94)	4.6 (89)
7	青島温州	三芳地区	6.8 (97)	5.0 (99)
8		千倉地区	6.4 (90)	4.4 (89)
9		暖地園研	7.4 (103)	5.0 (99)
10	川野夏橙	暖地園研	9.2 (102)	7.3 (101)
	平均* <sup>2</sup>	早生温州	6.5 (99)	4.9 (98)
		普通温州	6.8 (96)	4.8 (95)

( ) の数字は平年値（平成 8～27 年の平均）を 100 とした比数

\* 1 各地点の各品種の値は 40 果の平均 ただし、落果により調査果実を変更した樹がある

\* 2 早生温州の平均は No. 1～3 の平均、普通温州は No. 4～9 の平均

## 11～12 月の栽培管理

**早生・普通温州の収穫・予措** 品質を揃えるため、着色に合わせて収穫する。浮皮は着色後に発生するため、8 分着色以上の果実を先に収穫し、分割採取とする。

収穫・運搬・選果の際には、果実に傷がつかないように丁寧に扱う。

その後、腐敗防止のため、コンテナの 8 割ほどまで詰め、風通しの良いところへ置き、2～3%減量させる予措を行う。

**病害虫の防除** ミカンハダニやカイガラムシが多い園では、収穫後にマシン油乳剤を用いて防除する。樹勢の弱い樹や寒害を受けやすい園地では、寒い時期の散布を避ける。

青かび病・緑かび病の防除にはベフラン液剤 25（2000 倍液）\*を散布する。

防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>